

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072100284		
法人名	株式会社 山田檜木郷		
事業所名	グループホームやまだ桜の郷 あやめ荘		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地1		
自己評価作成日	平成30年1月3日	評価結果確定日	平成30年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人」としての尊厳を守り、入居者様それぞれの生活歴に合わせたライフスタイルを尊重し、家庭的で温かい雰囲気の中、生活の質・人生の質を高め、入居者様に生きがいを感じて頂けるようチームケアに努め、安全・安心・安らぎを提供できる施設を目指しています。又、地域とのつながりを大切に、保育園、小学校、中学校等との交流や桜の郷が主催する祭りのご参加、地域医療との連携を図り、地域の方々へ信頼して頂ける施設作りを目指しています。医療の協力機関との連携により、月に2回の訪問診療、入居者様の状態や状況により24時間の電話相談対応により、健康管理に力を入れています。又、併設しているデイサービスでは、機能訓練時に使用する器具も充実しており、自由に行き来が可能であり個別の機能維持・継続などにも取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目となり、人としての尊厳を守り、入居者の選択するライフスタイルを尊重するケアで理念の具現化に努めている。外出傾向のある入居者が馴染みの場所に行けるように支援したり、夜間の不穏が昼間の制止に起因していることに気づき、試行錯誤の末の対応で落ち着いて過ごせるようになった入居者もある。地域行事の太鼓や獅子舞の巡行や小中学校の体験学習の受け入れ、保育園児との交流が継続し、新たに管理者が学校の職業紹介に呼ばれたり、ユニット間のデイサービスのコンビニの移動販売に地域の方の参加も検討されている。日曜日開催の運営推進会議に行政職員の参加もあり、災害時の避難所などの依頼もある。良好な医療機関との連携で、安全、安心、安らぎのある生活を支援し、今後もさらなる理念の具現化が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グルーホームやまだ絵の郷あやめ荘**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念について、ミーティング時に理念の振り返りや研修を行い共有を図っている。又、玄関、事務所等に運営理念を掲示し常に職員が意識できるような環境作りに取り組んでいる。	新しい管理者は、人としての尊厳を守り、入居者の選択するライフスタイルの尊重こそ理念の具現化であると話している。日頃の職員たちの気付きからBPSDの原因を確認し、医療との連携もあり、安全、安心、安らぎのある生活を支援している。	職員たちと分かりやすい目標の設定を話し合い、目指す理念の具現化が進められることを期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスとの交流を図る事により、デイ利用者様との交流や慰問という形で、地元団体や保育園と交流を持ち、入居者と地域の繋がりを保つよう支援している。又、小・中・高等学校の授業の取り組み「職場体験」等受け入れている。当施設が飾り付けた、クリスマスイルミネーションは、地域の方々にも好評である。	地域行事の太鼓や獅子舞の巡行が継続している。小、中学校の体験学習の受け入れや保育園児との交流に加え、新たに管理者が学校の職業紹介の学習に他の職種とともに呼ばれ、デイサービスでのコンビニの移動販売に地域の方の参加も検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政区の回覧板を絵の郷にも回して頂くようになり、地域の回覧板にパンフレット、絵新聞、認知症や感染予防等の情報を提供し、地域の方にも読んで頂いている。又、見学者対応時に御説明をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は利用者家族、行政職員、ホーム代表、施設長、職員が参加し2ヵ月毎に開催している。家族からの意見・要望・質問等が出てホーム側からは現状・行事・運営に関する報告を行い意見交換の場となっている。	日曜日の開催であるが、行政職員の参加が叶い、全家族への案内で複数の家族が参加している。今年1月はインフルエンザの流行で開催を見合わせられこともあり、前回の会議では、行政職員がタイムリーに感染予防などのパンフレットや情報提供をしている。	地域行事への積極的な参加の継続で、運営推進会議への自治会長や民生委員などの参加を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に実績やケアサービス等の取り組みを報告、相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。毎月の地域密着型連携会議にも参加できる範囲で参加。、事業所の空き状況等の報告なども行っている。	昨年の秋急に管理者が退職し、新管理者は行政の担当課に相談しながら指定更新の手続きを終えたり、その後も何かと相談している。担当職員から外部評価調査が無事に行われているかなど心配する電話がかかっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の窓については、スロープがついておらず、転倒の危険性がある為、開閉に制限はしているが、玄関、中庭は開放しており、自由に行き来ができるようにしている。又、G・ミーティング時に身体拘束についての研修を実施している。	転倒予防センサーは使用しているが、身体拘束や制止の言葉は使っていない。外出傾向のある入居者に職員が同行し、疲れの出る所に椅子が置かれ、庭を通り抜けさせてもらう住宅の方には、理解や協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上を図るために、G・ミーティング等での問題提起や職員間での話し合いや研修の中で虐待が見過ごされる事がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の意識向上を図るために、G・ミーティング等で関連する資料を配布したり、研修し学べるよう努めている。	現在入院中の入居者は、成年後見制度の手続き中で、資料を整備し理解を深めている。身寄りが少なくなり制度の利用を考えざるを得ないのが状況である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に利用者ご家族と面接を行い理解、納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当職員を設けてその都度、意見や相談を受けたり意見箱を設置し運営に反映出来るようにしている。	運営推進会議の参加は減っているが、行事など機会あるごとに来訪する家族もあり、意見を伺う機会としている。家族から事故があったとしても外出したいとの本人の意向を優先してほしいとの申し出を受け、安全に配慮した言葉かけで対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回G・ミーティングを行い意見提案等を聞く機会を設けている。代表者、管理者は職員からの意見を反映できるよう努めている。	ユニット毎のミーティングで、年間研修計画に沿って研修を積み重ね、ケアカンファレンスなどで業務について話し合っている。ユニット毎の特徴があり昼食のとり方や、業務の流れなど異なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働ける様に施設長、管理者が主体となり業務改善を行い職員の管理上で把握しうる総合的意見をまとめ代表者へ提案することにより更なる環境・条件の整備に取り組むようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークや求人紙により職員募集を行っている。20代から60代まで幅広い年齢層の職員を配置しており、世代による職員の考え方等も考慮し、お互いが良い刺激となれるよう配慮している。	ロコミなどで採用された職員たちは経験の有無に関わらず入居者達の思いや意向に沿った支援に懸命に励んでいる。高齢や子育て中の職員も多く、子供の疾病や希望の休暇をなるべく確保できるように対応している。法人代表もケアマネージャーを受験するなど、介護の理解に努めている。	管理者や職員たちが役割を分担しながら、本来の介護力を発揮できる人員体制の整備を願っています。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	G・ミーティング時に人権尊重の為、人権教育啓発活動の勉強会にて取り組んでいる。	年間計画に組み込まれた研修を、ユニット毎の勉強会で学んでいる。参加できない職員には資料を配布して確認できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Gミーティングに勉強会・研修を取り入れている。又、参加できない職員には後日、職員に個別の指導と資料を配布を行っている。施設外研修については、随時、受ける機会を持つよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	CM連絡会・地域密着型サービス連絡会等に参加し、他職種や他事業所との連携や交流を図っており、連携により得た情報を職員に周知しサービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の性格・要望・不安等を把握するために、入居者様・ご家族様の想いを傾聴し、十分なアセスメントを作成する。又、入居時には安心感を確保するために職員が付き添っている。それにより、他の利用者との人間関係の形成にも繋がっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の要望を伺い、本人の要望や行政の指示を踏まえた上で、家族と相談し、本人や家族が安心して生活できるよう支援している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談の中で必要としている支援を見極め、他事業所のサービス説明も取り入れながら対応を行っている。現在、関係医療機関との連携を図り、必要に応じたサービスの対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯等家事活動の参加を促し、利用者に生活の張りを持たせると共に、社会貢献ができるという自信がもてるよう支援している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進委員会や電話等により、家族と密に連絡を取る事によって、共に本人を支えていく支援を提供できている。またイベントや外出参加の声掛けをご家族様にも行い、参加も多く、本人との絆関係も良好となるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも電話ができる環境や、区の敬老会等への参加。外出・イベントなどでの家族・友人の参加により、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。また、母校への外出も行っている。	入居者達のさまざまな家族関係を何とか家族の面会などで関係継続に繋げている。散歩の途中で友人の理髪店に行くようになり、正月に面会に訪れたその友人と楽しく歓談された入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事への参加により、利用者同士の会話が生まれ、孤独感を感じることなく生活できている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の情報提供や、本人及び家族の相談等、必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人及び家族に希望・意向を伺っている。また、日々の中で変化していく、本人の希望にも柔軟に対応できている。又、職員間での情報の共有に努めている。	入居者への話しかけを積み重ねて信頼を得ながら、思いや意向の把握に努めている。買い物をしたいの思いは、コンビニの出張販売で時間をかけて一緒に品物を選んで購入することで、叶えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を伺い、アセスメントシート作成することにより、職員が情報を共有できている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録日誌、看護記録を毎日つけ、職員が出勤時に目を通すことにより、利用者の日々変化する情報を把握できている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を常勤させ、現場の介護員・利用者・家族・医療関係者等の必要な関係者と、密に連絡ができており、それぞれの意見を踏まえた介護計画が作成できている。	夜間の不穏状態が昼間制止されたことに起因しているようだと感じた職員たちは、ケア会議で話し合った対応策を、介護計画に落とし込んでいる。試行錯誤の末の対応で、夜間の不穏はほとんど見られなくなっている。	具体的で個別性のある長期目標が生かせる短期目標などの見直しや効率のよい記録用紙の工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・業務日誌を記入することにより、職員に利用者の情報を共有させ、ケアプランの計画や実践に活用できている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスを活用し、機能訓練や、器具を使ったレクリエーション等、グループホームでは提供し難いサービスも提供できている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買物は利用者も同行し、振興券やお預かりしているお金で、買物ができるようにしている。また、区の敬老会等にも毎年参加しており、利用者が豊かな社会生活が送れるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望する医療機関や、当施設との関係がある医療機関等、複数の医療機関での受診を可能としている。	2週間に1回、ユニット毎に協力医療機関による往診があるため、必要時はその都度診てもらっている。いつでも相談に応じてくれる医療機関に緊急時は看護記録を持参している。訪問歯科や訪問マッサージの利用、その他のかかりつけ医の受診など適切に支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護職員・医機関の看護師には、24時間電話での対応をお願いしており、早期での受診や、事故対応ができるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には細目に来院し、医療関係者との情報交換や、本人の状態を把握することにより、早期の退院や安心できる入院生活を送れるよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人と家族に説明を行っている。訪問診療・本間看護で嘉麻赤十字病院・吉原医院との強い繋がりがあり、緊急時にはすぐに受け入れてもらえるようになっている。	重度化した場合の方針や同意書を整備しているが、医療的介護が必要になれば医療施設や介護老人福祉施設などへの受け入れが可能で、家族との話し合いで支援している。入居者もホームで落ち着いた生活を送りながら過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回消防士、救命士による急変や事故の対応についての講習を受講しており、職員全員が救命技能を有することができるよう支援している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の昼夜想定での防火訓練を実施しており、スプリンクラーの設置、避難経路の確保等、利用者が安全に避難できるようにしている。また、避難場所として地域の協力により公共施設の使用も可能となっている。	今年度2回目の避難訓練を行う予定である。昨今の自然災害を見据えてホームやデイサービスの施設を地域の避難場所としたいとの依頼があり、備蓄などの見直しも兼ねて訓練の検討をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に対し、生活を共にする者という立場で接しており、本人が最も居心地が良い環境となるよう利用者一人ひとりに対し、個別の対応を行っている。	デイサービスの利用から入居された方もあり、貼り絵などの手作業が好きな入居者や小説を読むほうがいいなど一人ひとりの人格が尊重されている。流木を磨いて作品作りをする入居者のためにビールケースの作業台と椅子が玄関に準備されていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員都合になる事がないよう、常に自己決定において行動ができるよう声掛けをしている。また、利用者が思いや希望を表現しやすいよう、職員の業務にゆとりを持たせている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事入浴等は、時間に幅を持たせ本人のペースで生活できるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容については、本人の行きつけの店を利用されたり、出張美容サービスを利用している。入浴時の更衣については、本人が選ばれた服に着替えて頂くようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、味付けをされたりする方や、盛り付けのみの方等、利用者一人一人の能力により、できる範囲で行っている。また、食事は職員と同じテーブルで摂取されており、会話を楽しみながらの食事となっている。	調査日は、先に食事を始められた入居者から、「サラダが美味しいよ」と声かけもあり、和やかな食事風景である。食事作りや介助に忙しいような職員に、入居者から「何かしようか、洗い物でもしようか」など声がかかり、「ありがとう、一緒にお願います」の声が待ちどおしい様子であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、野菜、魚をバランスよく提供し、栄養の偏りがないようにしている。利用者の好き嫌いに関しては、本人や家族から情報を集め、代わりとなる料理を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力により一部介助を行う事もあるが、基本的に自己で口腔ケアをい行って頂いている。また週に一回の歯科往診により細部の汚れを除去している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁のある利用者に関しては、個々の排泄パターンを把握し、こまめに声掛けをすることにより、トイレでの排泄ができるよう支援している。	パットの交換のたびに立腹していた入居者はどうにか立位ができることからトイレに誘導したところ、トイレ排泄ができるようになった。家族からおむつ代の請求が低額になり驚いて問い合わせもあった。本人も立腹することが減り、落ち着いた生活を送っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、散歩等、適度な運動を行う事で、便秘の予防に努めている。また医師からの指示がある利用者には服用を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、希望があれば併設しているデイサービスの大浴場を使用し、毎日入浴できるよう支援している。	週3回を目途に入浴支援している。午前、午後などと時間を決めず、入らないとの思いに合わせてするなど、入居者の選択や思いが尊重されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間居室は室温調整がされており、自由に行き来ができる為、利用者はその時々状況に合わせて休息ができるようになっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護記録に服薬内容を記録・保存しており、いつでも閲覧できるように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業、喫煙、飲酒、カラオケ等、元の生活で本人が好まれていた事を、積極的に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭は常時開放しており畑作業や洗濯物の収納、散歩等、思い思いに行動できるよう支援している。随時、温泉や水族館、四季花見学等の園外レクリエーションも行っており、家族の参加を促している。	この冬は寒さとインフルエンザの流行でホームとしての外出を控えて、家族に連れ出してほしいと依頼している。デイサービスが休みの日曜日にカラオケを楽しんだり、インコの部屋を眺めて癒されたり、たこ焼きやお好み焼きを楽しむなどしている。もうすぐ桜が咲くのを楽しみに、庭の桜のつぼみを眺めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所保管としているが、本人の希望や能力により個人で保管している。事務所で保管している利用者も、希望があればすぐにお渡しできるようにしており、買い物や親族のお小遣い等、自由に使用できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は希望があれば、いつでも利用できるようなしているが、電話に関しては頻度、時間帯によっては、後日に行って頂ける様本人と話し合い、家族の負担にならないよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外窓を大きくとることにより、日当たりも良く、四季の移り変わりを楽しめるようにしている。また、アロマを焚きことにより、不快な匂いを軽減させると共に、利用者にはリラックスして頂ける環境を提供している。	掃きだしの窓から、広い芝生の庭や花壇が食事しながら見渡せる。ソファの置かれた一角に現在入院されている入居者が使われていたベットが1台置かれている。空調管理で過ごしやすいため、入居者は自然にリビングに集まり寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置しており、テレビ鑑賞されたり、休まれる等、利用者が思い思いに過ごせるよう支援している。また、玄関に設置している椅子では利用者の良いコミュニケーションの場となっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、利用者と家族に相談し、ダンスやテーブル、仏壇等、これまで使用されていた馴染の家具を配置し、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	大きな手書きの表札が居室入口の引き戸に張られ、其々馴染みの筆筒やテーブルが置かれ、夫の遺影を飾り小さなお猪口が備えられている居室もある。転倒予防のためにベットが故意に居室の中央に置かれ、センサーで職員が駆けつけるのに間に合うよう工夫されていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使用する場所や物にはわかりやすく表示している。時間がかかっても出来ることは見守りながら行って頂いている。		